

多様な経験で働く頭を

これからは「めっちゃくちゃ変化する世界」になります。

そこで生き残るための教育は、意外と本質的なものではないでしょうか。つまり、考える力と、考えたことを言葉にする力を身に付ける、そして、体験総量を増やすということなのです。

どれだけ遊んでけんかをしたり、障害のある人や外国の人と出会ったか。挫折も含

花まる学習会代表

高浜 正伸さん

②

めた多様で豊かな経験が足りない」と大人になった時、苦手に感じたり、乗り越えられなかったりしてしまふ。いつの時代も同じです。

「より良い枠組みを選ぶために良い成績を取る」という従来の考え方では、コロナ禍のような事態に対応できない。知識を蓄えて正しい答えを出すのは今後、人工知能(AI)がやってくれます。そうではなく、働く頭をつくるのが大事。

そして、生き方は自分で決めなくてはいけません。自分の「好き」を大事にし、それで飯を食うために何が必要かを考える。それには「哲学」

が必要ですが、何にでも効率を求める雰囲気は今はその時局がありません。

シリコンバレーで大成功した人の共通点は高校、大学で

たかま・まさのぶ 1959年熊本県生まれ。幼児から中学生までの学習塾「花まる学習会」代表。3浪して東京大に入学、90年に同大学院修士課程修了。思考力や野外体験を重視する独特の教育理念や学習法で注目される。算数オリンピック作問委員も務める。

「不良」だったということらしい。周りの言つことが絶対とは思わず、従わない。学校に行かず街でフラフラしながら

ら、自分のペースを取り戻し、世界を自分の言葉で語り直す。正解なき人生で誰の笑顔を一番大切にすることを考えたのではないだろうか。

実際に食べていくには実力を付けなければいけません。しかし、まずは自分の頭でとことん考え、周囲の期待や常識を取り去った上で「やっぱりこれがやりたい」というビジョンを明確に持つことが大事です。

「コロナ禍は「不良」でない人にも「当たり前」を疑う哲学の機会を与えてくれたのではないのでしょうか。

教育シンカ論

コロナから問う



高浜正伸さん。「教育とは、生きる力のバトンを渡し続けていくことだ。」

(毎週日曜日掲載)